

研修名 発達支援リーダー研修 1

平成29年8月21日(月) 10:00~16:00

講演 「乳幼児期の発達と発達障害の理解」

講師 平安女学院大学短期大学部 教授 清水 里美 氏

講演要旨

AM

1. はじめに

- 1) 子どもの砂あそび
- 2) 発達を理解するとは

2. 発達の定義と発達検査

- 1) 発達とは
- 2) 発達検査と発達の問題
- 3) 「発達段階」「発達課題」

3. 乳幼児期の子どもの発達(その1)

- 1) 発達課題と発達の姿、
- 2) 映像で見る乳幼児の発達(その1)

4. 乳幼児期の子どもの発達(その2)

- 1) 発達課題と発達の姿
- 2) 映像で観る乳幼児の発達(その2)

5. まとめ

・乳幼児期における子どもの発達において、重視すべき課題

- ① 愛着の形成
- ② 人に対する基本的信頼感の獲得
- ③ 基本的な生活習慣の形成(身の回りのことが出来る等)
- ④ 十分な自己の発揮と他者の受容による自己肯定感の獲得
- ⑤ 道徳性や社会性の芽生えとなる遊びなどを通じた子ども同士の体験活動の充実

・発達的な視点からの支援のポイント

- ① 仲間関係や大人との関係の中で、自分の欲求に対する適度な折り合いのつけ方、適切な自己主張の仕方、対人関係での自分の位置などを経験的に学習していく
- ② 対人関係(集団生活)の中での成功体験が自立に向かう肯定的な自己イメージにつながる。

*自分らしさ、程よい適応状態(無理しない)→自己理解、自己選択

PM

1. 気になる子どもの発達を見る(復習)

- 1) 子どもの遊びの映像 自由遊び
- 2) 子どもの遊びの映像 発達支援の観点から

2. 気になる子どもの事例から

- 1) 子どもの気になる行動を理解するには

- 2) 実際のコンサルテーション事例から
- 3) 個別支援計画でよくあること
 - ・好きな遊びを見つける・興味を促す・個別に声をかける
 - 抽象的な記述では明日から何をすることが分かりにくい
 - 取り組みの結果をどう評価するか、評価の基準を持つ、関係者で共有する
 - ★簡単な行動観察記録をつける。日時、場面、対象児の様子、保育者側の働きかけ、その結果があればよい

3. 発達障害特性の理解

- 1) MSPA (エムスパ) とは：発達障害用の要支援度評価スケール
- 2) 研究報告

4. 発達障害への支援

- 1) 「発達障害」の特性理解から支援が始まる
- 2) 子どもに対して
- 3) 保護者に対して

5. PM まとめ

発達障害の支援・理解の手立てとして考える6のこと

- 1) 発達理解の為に確認すること
- 2) 環境調整の為に確認すること
- 3) 支援を計画する上で確認すること
- 4) 具体的な手立てを考える上でおさえておくこと
- 5) 家族との連携のために大事にすること
- 6) 支援の長期目標として意識しておくこと

※子どもは一人ひとり個性的な存在。一人ひとりの特徴を見極め、対処の方法を考えよう。

※その子どもにあったやり方を見つけるには、

①関係者からの情報収集②関係者間での情報交換③支援仮説を立て試行錯誤する④結果を関係者間で見直す

→「チーム」でアイデアを出し、実行し、見直しをすることが重要！

〈感想〉

今回、研修に参加させていただき、発達の順番を知っておくこと、興味関心がどこにあるのかをしっかりと捉えておく必要があることを改めて感じました。

映像を通して、短い時間でありましたが、その中でも多くのその子の発達の様子、今どの状態なのかという視点が多くあることをしり、改めて子どもたちを見るポイントをどう意識してみるのか分かりやすく教えていただきました。また、個別の支援計画においても、何をどうやって支援するのか、どう配慮するのか等、具体的に書くことが必要ということ。自分なりに書いていたつもりであったが、振り返れば抽象的な書き方をしていたと感じました。

忙しい中、準備、研修を開いていただきありがとうございました。少しでも子どもたちに返していけるよう頑張っていきたいと思えます。

(記録 舞鶴市立中保育所 安久 嘉哲)